

2015年度（平成27年度）の活動報告

子どもの生きる力育む事業

1、てらこや事業

①「子どものてらこや事業」

4月に、各学年の教材や学習プログラムを再度検討して、スモールステップで学ぶ。また、保護者との連携を密にしていく。算数は、四則計算を繰り返して、低学年では、特に引き算に力を入れた。高学年では、文章問題や図形・単位・面積・時間・長さにも重点を置き、全体的な算数の力の向上に努めた。学年末には、その学年の重点問題を全員が理解できるように徹底して学習した。4月から12月までの欠席者は少なく、皆勤賞は、8名、精勤賞は、6名、努力賞は6名だった。

利用実績 スタッフは2名～3名体制

月	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		合計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
27年												
4月	4	32	4	44	4	28	4	24	4	36	20	164
5月	3	36	3	44	3	21	4	24	4	36	17	161
6月	4	36	4	32	4	28	4	24	4	36	20	148
7月	3	30	4	44	4	28	4	24	4	28	19	154
8月	4	40	4	28	4	28	4	24	4	28	20	148
9月	3	30	4	40	4	28	4	28	4	32	19	158
10月	3	27	4	40	4	28	4	24	4	28	19	147
11月	4	36	3	36	4	28	4	24	4	24	19	148
12月	3	30	4	36	3	30	4	24	4	24	18	144
H28 1月	2	18	4	36	4	44	4	20	4	28	18	146
2月	4	36	4	36	4	44	4	20	4	24	20	160
3月	3	30	4	28	4	48	4	15	4	28	19	149
合計	40	381	46	444	46	383	48	275	48	352	228	1835

教材・百マス計算、十マス計算、開発テキスト、市販のテキスト、リズム漢字表、音読プリント
 おやつ提供 休憩時間は遊びます。 スタッフ研修1回実施 スタッフ 延べ10名

2、「あそびスクール」(学校に行きづらい子どもの居場所づくり)

活動日：毎週月曜日 午後6時半～7時半 場所：ハートフレンド1階または2階

5月～7月は、月4回 8月～平成28年3月は月2回 合計28回実施

対象者：1名 (小学5年生) 1名 (中学2年生) スタッフ 徳谷

目的：本人が計画したことを実施することで、「やってみたい」「やる気」を育てる。
一緒に笑うことで「元気」と「自信」をつける。

内容：本人がやってみたい遊びを実施する。

トランプ、リコーダー演奏、ゲーム、手芸等

てらこやの様子 (表彰式です)



3、「あそびのてらこや事業（文化部）」

今年度テーマ「身体・心・頭を動かす」

異学年での遊び・創作活動により、子どもたちがコミュニケーション能力をつける。情緒が豊かになる。人間関係を学ぶ。体験をすることで、学んでいく。

回	日時	内容	参加人数 こども+おとな=計
1	4/18 (土)	ハンドベル・こどもまつり準備	13 + 5 =18
2	5/23 (土)	「こどもまつり」・乳幼児ハート広場と共催 10時から12時開催 12時半片付け終了 (広く案内し、世代間交流の場とする)	195 + 150 =345
3	6/20 (土)	集団ゲームやかみしばい (新入部員歓迎会)	15 + 5 =20
4	7/18 (土)	工作 (敬老の日プレゼント作り)	15 + 5 =20
5	9/19 (土)	午前：シャボン玉つくってあそぶ・ドッジビー 午後：ハンドベル演奏に行く (めばえディ)	14 + 5 =19
6	10/17 (土)	クリスマス会練習とドッジビー	14 + 5 =19
7	11/21 (土)	クリスマス会練習と大縄跳び	14 + 5 =19
8	12/19 (土)	みんなで楽しむクリスマス会 (広く募集) 出演者 10時集合：午前練習 (お弁当持参) 午後 12:30 集合：クリスマス会 3時半まで	74 + 23 =97
9	1/16 (土)	昔あそび (はねつき、福笑いなど)	12 + 6 =18
10	2/20 (土)	大縄跳び・ドッジビー・走ってじゃんけん	14 + 4 =18
11	3/19 (土)	卒業を祝う会 (お楽しみ会) サンドウィッチを作って食べます	17 + 6 =23
		参加合計人数	397 +219 =616

皆勤賞 6名

基本会場 桑津小学校講堂

ハンドベル練習 9:00~9:50 文化部 10:00~12:00

*活動参加費：年会費 1500円

*ハンドベルクラブ指導料：年間 500円

*活動保険料 (毎回行事保険に入ります)：年間 300円

まとめ

基本の部員は、14名です。小さな集団ですが、異年齢のよい集団ができています。

その他、卒業した中学生3・4名が参加してリーダーとして、まとめてくれています。

5月の「こどもまつり」では、アンケートから95%の人がとても楽しい、楽しかったと回答しています。

部員のこどもたちは、スーパーボールすくい・カプラ積み・コインおとし・フリスビーゴールなどのお店を協力して運営しました。

12月のクリスマス会も昨年より参加人数が増え、どちらも、広く参加募集することで、地域に根付いてきたと思われます。

年度末アンケートより児童17名回収

今年度のプログラムで面白かった、楽しかったこといくつか選んでもらう。

1. ドッジビー(16名)
2. 卒業を祝うお楽しみ会(13名)
3. 集団ゲーム(11名)
4. 大縄跳び(9名)
5. 工作・5月のこどもまつり・クリスマス会 (各8名)
8. 昔あそび(6名)
9. かみしばい (0名)

参加のこどもたちは、身体を動かすのが大好きです。そして、仲間がいるからできる集団ゲームも大好きです。そして、これらのプログラムは、SST（ソーシャルスキルトレーニング）でもあります。活動しながら、社会的なスキルを身につけることができます。

活動の様子



基地取りジャンケン



紙芝居



施設に訪問 ハンドベル演奏



シャボン玉を作ってあそぼう

子どもの生きる力を向上させる事業

2015 第3回こども防災リーダー養成講座（一泊避難所体験事業）

実施報告書

（目的）

災害時にどのように動けばいいかを実際に宿泊で体験して多くの「気づき」を学び、「命を守る力」としていくことを目的とする。3回目の実施ということで、子どもの防災意識をさらに高めて定着させていく。

また、講座の1期生、2期生の中学生の参加を促し、小学生と中学生がお互いを支え合える機会としたい。

（事業内容）

日時 （1）平成27年10月31日（土） 午後1時～4時半 防災フォーラムと説明会

参加者 29名

（2）平成27年11月7日（土）・11月8日（日）一泊二日 場所：桑津小学校多目的室

参加者 小学4年生～6年生 33名、中学生7名 合計40名

（1）防災フォーラム 2015年 10月31日（土）

プログラム 午後12時40分開場 午後1時 開会

講師：大阪教育大学准教授 新崎国広氏

① 午後1時10分～午後2時 NHK復興サポートDVDを鑑賞

岩手県大船渡市赤崎町 「子どもの声をみんなで聞こう」

② 午後2時～午後3時半 新崎先生の進行でワークショップ

午後3時半～午後4時 一泊避難所体験・説明会

参加者： 29名

小学生12名 中学生2名

大人 15名

中学校校長、教頭 小学校教頭 地域の女性防火リーダー2名

民生委員長 保護司 地域連合厚生部 区役所2名

大阪市危機管理室 消防署司令官 青少年指導員

ハートフレンド



(2) 一泊避難所体験事業

プログラム

時間	内容	講師	備考
7日 18:00	集合：多目的室 挨拶	佐倉会長 大石校長	タイムスケジュールの確認 荷物の自慢大会 小倉区長 増田PTA会長
18:30	勉強会①	区役所	新聞紙でお皿を創ろう
19:00	夕食（非常食）	区役所	非常食とお味噌汁
20:00	勉強会②	大阪市	地震のメカニズムについて・危機管理室 山崎さん
21:00	勉強会③	区役所	新聞紙でスリッパを作ろう
	勉強会④	区役所	「防災ずきん」をつくろう
		夜食	メロンパンとジュース
22:00	就寝		ダンボールと毛布で工夫する
8日 6:00	起床・朝食		市販のおにぎり・ブタメン
7:30	勉強会⑤	消防署	シャツで担架づくり・心肺蘇生トレーニング 田 中司令官
9:00	振り返り	徳谷	気づきをまとめる・発表
10:00	修了式	今井教頭	修了書授与 初級・中級・上級
11:00	解散		

参加者：子ども 40名（小学生33名、中学生7名）

大人 18名

区役所3名 地域連合2名 PTA会長 青少年指導員2名

女性防火リーダー1名 ハートフレンド5名 桑津小学校3名

地域防災リーダー1名

主催：特定非営利活動法人ハートフレンド 桑津地域青少年指導員協議会

共催：桑津小学校はぐくみネット

後援：東住吉区役所

協力：東住吉消防署 大阪市役所危機管理室



2015 こども防災リーダー養成講座

アンケート結果の集約（抜粋・要約） 40名参加（全員参加） 来年も参加したい：40名
4年生 参加者数12名

① 気づきと感想

■■■■・・・防災のためのリュックを創り家でどこに避難するかをちゃんと決めようと思います。昨日、今日でいろいろ勉強しました。その中で一番印象に残ったのは防災ずきんです。ぼくは防災ずきんを作ったことがなのであまり創り方はよくわかりませんでした。でも大人の方が手伝ってくれたのでなんとかできました。防災リーダーになれるように頑張ります。

■■■■・・・毛布は人が倒れた時にも役にたつんだなあと思った。毛布と上着だけで担架がつけれるなんてびっくりしました。

■■■■・・・避難してきた人たちが1日でも長く生きれるように今日ならったことが、その時に必ず役に立ち多くの人を助けてくれることに気付いた。

とても楽しかった。でも本当の地震などだとすると不安だと思う。でもそんな時に助けてくれるのが、友達だ。子ども防災リーダーになろうという企画は一生の人生に大事なものだと思う。この企画に参加してよかったとすごく思う。

防災のときだったら、すごくこわくなった。でも、昨日、今日と防災の時、どうしたらいいのかがたくさんわかった。担架の創り方、心臓マッサージの仕方がたくさんわかった。とっても楽しくていい勉強になった。

■■■■・・・自分達で担架をつくり、心臓マッサージなどができることがわかった。大きな地震が起こると何か月の避難所で生活していて、とても辛い。ダンボールで寝たり映像を見たりしてわかりました。昨日と今日は災害の探検ができたので本当に地震が起きたら、今日学んだことを活かしたいと思います。ダンボールで寝るのは少し硬くて痛かった。でも避難所ではその生活が普通なので大変だなと思います。落ち着いて身体をかくして火に近づかないであとで消す。そのようなことを覚えました。

■■■■ ・ ・ 地震で1分ぐらいたつと津波がきやすい。いろんなことを学んだし、いろんな物を創ったし、地震の映像をみて地震は怖いと思った。そして新聞紙スリッパとお皿を創れて嬉しかった。勉強になった。来年も参加したい。

■■■■ …寝るときのしんどさを自分の身体で体験して避難所で避難している人はふとんで寝ていると思っていたから、寝るときのしんどさに気づいた。地震や津波のビデオを見て「、もし、津波がきたらどのように行動するのかをあらためて考えた。来年も参加して防災リーダーとして成長していきたいです。

・ ■■■■ ・ ・ ・ ダンボールで寝るときに背中が痛かったので次回はちゃんと工夫して創りたいです。地震がおきたときに必要なことを教えてもらいました。特に防災ずきんが難しかったです。4年生でまだ縫い方をおそわっていないので難しかったです。でも先生や友達に教えてもらって完成しました。楽しかったです。来年もきたいです。

・ ■■■■ ・ ・ ・ ・ ダンボールで寝られなかった。背中が痛かった。避難所の人は大変。楽しかった。大変でした。来年も参加したい。

■■■■ ・ ・ 地震、津波が来たら学校にたくさんの人が避難する。それだけの食糧があるなんて知らなかった。五目御飯はとても美味しかった。勉強会でも学校で習っていない地震や津波の話が聞けました。また、来年も参加したいです。

・ ■■■■ ・ ・ ・ 家族と会えなくなるかもしれない。ここに来てとても楽しかったです。初めてスリッパをつくったりお皿を創ったり、防災ずきんを作ったりして、とても楽しかった。ダンボールで寝るのは大変だったけれど、とても楽しかったです。この練習の成果を本当の地震のときに活かしたいです。

・ ■■■■ ・ ・ 今年初めてなので教えてもらったけれどできることを増やしたい。ここへ来る前は、泊まるのはいやだなあと思っていましたが、友達もいたので楽しかったから、来年も参加してこども防災リーダーにちょっとずつ近づいていきたいです。

■■■■ ・ ・ 心臓のマッサージのやり方を教えてもらって良かった。

5年生 ・ ・ 15名

■■■■ ・ ・ ・ 避難したら他の人の迷惑にならないようにすること。静かに寝る。寝た時にかいをつくって人をけらないようにする。家で避難用バックを帰ったらつくります。

・ ■■■■ ・ ・ ・ 避難所では赤ちゃんやおじいちゃんや妊婦さんも怪我をしている人もいるから、そういう人たちのために防災リーダーは積極的に大人の人たちを手伝ったりしなければいけない。寝床が腰が痛かったので、来年はもう1枚ダンボールをひいたほうがいい。もし、いざとなった

時に家でも学校でも今回の経験をいかしてダンボールの寝床の創り方を教えたり、毛布で担架を作って怪我をしている人を運んだりしたい。

・ ・ ・ 普段から防災バックを確認したり、避難場所を家族で話し合おうと思いました。ダンボールで寝場所を創ったときは、やっぱりダンボールは硬くて寝にくかったです。体育館に非常食が備蓄されているのは初めてでした。地震は明日来てもおかしくないと言われているので、いつきても大丈夫なようにしっかりと準備をしたいと思います。あと妹たちにも防災ずきんを作ってあげようと思います。

・ ・ ・ 地震のときにどこに隠れるか避難するところはどこかをもう1回地図とかで確認しようと思う。担架の創り方とか心臓マッサージの事を教えてもらったので災害とかもし起こったら、昨日、教えてもらったことを思い出していろんな人を助けたい。

・ ・ ・ 津波や地震がきたときにすぐに避難できるように準備しておく。寝るときに腰が痛くてしんどかったから、その下に毛布をひいて痛くならないようにしたり、暑かったから足の所から風が通るようにあけて寝た。新聞紙スリッパを作って、ガラス（ペットボトルの破片）の上を歩くと痛くなかった。新聞紙で創れるのはすごいなと思った。

・ ・ 災害がおきたら自分自身で守って怪我をしている人を助けたい。新聞紙で皿を創るのが難しかった。寝るときはすぐに眠れなかったから、来年はすぐに寝たいです。防災ずきんの創り方が難しかった。

・ ・ 学校でくらすのは落ち着けないし、心配なこともたくさんあるし、家族と離れたらもっと心配になることがわかった。私は学校で泊まっているいろいろなことを学びました。特に地震に関することがたくさんわかりました。来年も防災リーダーにまた参加したいです。

・ 学校で暮らすのはたくさんの工夫が必要だと思いました。もし、学校で暮らすことになったら、防災リーダーで学んだことを生活に活用するようにしたいです。ダンボールで寝ることが一番印象に残りました。私は、防災リーダーに来る前は全然なにも防災のことをしりませんでしたので、来て良かったです。来年も防災のことを学びにきたいです。

・ ・ 地震がおきたときに長い時間避難場所におると思うから食糧の準備をしておく。みんなの迷惑にならないように、リーダーの指示を聞き、先生の話ちゃんと聞いて行動し、発表するときはしっかりと発表して、先生がしゃべっているときはしゃべらない。

・ 私達みたいな小学生でも命を救えることがあるということがわかった。学校にもいろいろなたべ野もや災害用のものがたくさん置いてあるということがわかった。来年も参加したい。

・ ・ ・ すぐに電気がつけられる。防災ずきんを作るのが楽しかった。

・ ・ ・ 竹馬と毛布で担架ができることがびっくりした。2回目の参加だけれど新聞紙でお皿を創るのは初めてなのでよく勉強になりました。ダンボールは昨年よりも寝にくかったから、次は寝やすいようにしたい。防災ずきんも創り方がわかったので家でも作れるように頑張りたいです。大地震がおきて今日、習ったことを活かせるように頑張りたいです。

・ ・ ・ みんなでしっかり、いつ地震がきても大丈夫なように日頃から話し合いたいと思います。私は、今年初めての参加なので、いろいろわからないことがありました。でも新聞紙でお皿を創ったりするのは、とても簡単なので家でも創ってみたいと思います。楽しかったです。特に地震の

- ・ [REDACTED]・・・みんなが協力し助け合うことが大切と気づいた。寝るときに小学生がなかなか寝なくて自分もなかなか眠れなかった。みんなが他の人のことを思って静かにすればいいと思う。
- ・ [REDACTED]・・・大人に頼らなくても私達だけで人を助けることができるということに気付いた。私は、1年空けての参加で、中学生リーダーとして活動しました。班員をまとめるのは大変で教えることもたくさんありました。初めての中学生リーダーで緊張をしました。きちんとできるかなと不安でしたが、みんなひとり一人が私に協力してくれたので、誰ひとり怪我なくて最後までやり遂げることができました。気づいたことも大人の人に1から10まで頼らなくても私達子どもだけである程度の処置、助けることができることに気づきました。地震がおきたら、私達防災リーダーに来た仲間と今日教えてもらったことを最大限の力を持ってできるように頑張ろうと思いました。
- ・ [REDACTED]・・・中学生だから小学生だからというのではなく、みんなが知っていることであれば「できる」「できない」でなく、「やる」と強く決める心がここで学べました。防災リーダーでは失敗ばかりでしたが、同じ班の子に助けてもらい仲良くもなれました。
- ・ [REDACTED]・・・今回、私は、中学生リーダーとして災害が起きた時は、みんなで助け合い、自分のことだけでなく、他の人のことも考えないといけないということが大切だと気付きました。地震のおきたときの映像をみて改めて恐ろしいと思いました。非常食も十分に足りるのかなと思いました、分け合って食べようと思った。
今回勉強したことは家に帰ってから家族に教えようと思いました。家に帰ったら、避難場所を話し合ったり、避難用バックにシーチキンやラップを詰めようと思いました。災害のときには大人の人と一緒に困っている人を助けようと思った。
- ・ [REDACTED]・・・自分でも人の命を助けることができる。防災用かばんを創っていつでも連絡がとれるようにしたいです。





寝床紹介



作った防災ずきんをかぶってパチリ



一人で人を運ぶ練習



修了証書の授与

地域で子育て支えたい「子育て支援事業」

1、 地域子育て支援拠点事業（一般型）

0歳から3歳までの乳幼児親子に「ほっとできる場」を毎週月曜日～金曜日まで週5日間、午前10時～午後3時の5時間の開設をしてきました。

昨年度より、広報力が大きくなり、「HPを見てきました。」「乳幼児健診でチラシを見て」「なでしこを見て」と言われる保護者が増えました。ハートフレンドの文化部やジュニア・リーダークラブに参加していた子どもが、親になり、「子どもが生まれましたよ。」と言って、ひろばに来てくれることも増えました。「地域ぐるみで子育て支援」の成果が、現れてきているように思います。

「ひろば」では、「親子あそび」「折り紙講座」「ムーブメント」「読み聞かせ」「スクラップブック作り」「パネルシアター」「お誕生日会」など、親子の関係作りを促進したり、友達づくりを促進するプログラムを実施しています。また、専門家や保健師を招いて「歯科相談」や「栄養相談」も実施して、子育ての不安を少なくしていくことに努めています。

また、ふれんど広場は、大阪市紙加美北市営長沢住宅に移転して、地域交流サロンも併設した「ひだまりサロン」の一環として、新しいスタートを切って4年です。月2回「おとなのてらこや」を実施しています。平野区平野馬場の新しい広場「平野おやこの広場」もう4年たちました。少しずつ定着してきました。行政区を越えて、地域の子育て支援のうねりを起こし、多くの人をつなぐ支援とともに、住みよい町、安心して子育てできる町づくりを目指しています。

① ハート広場

「ハートフレンドこどもまつり」の実施 東住吉区子育てフェスタに参加
東住吉中学校の中学生の福祉体験学習として6名の中学生を三日間受け入れました。「折りがみ講座」
(担当者からの一言)

ハート広場では、0歳から3歳までの子どもが一年を通して利用してくれています。

季節によって来所人数は変動します。春は、今まで来ていた子どもが入園したりで少なくなりますが、その一方 ブックスタートで初めて来られた親子連れが また広場に遊びに来てくれるようになります。初めて来られる少し不安げなお母さんに、心がほぐれるように丁寧に声掛けして、次回に続くように接しています。5月の「子どもまつり」では、小学生との合同のまつりで、たくさんの親子連れの参加があり、ととにもぎやかな世代間交流ができました。クリスマス週間では、日替わりで遊びをして楽しんでいただけました。毎月ごとの遊びや講習会は、お母さんの興味に合わせて自由に参加してもらえるので、毎回 満足していただいています。予約制のスクラップブック作りは、家族の思い出や子どもの成長の記録となる作品作りとなるので 人気の講座です。

遊びに来られるお母さんたちは、年齢も異なり、出産経験や子どもの人数も違うのですが、分からないところや、不安に思うことをお互いに話し、アドバイスしたり、励ましたりと、とてもよい仲間づくりの場となっています。



避難訓練

スクラップブックング

② ふれんど広場 平成 20 年 1 月開設

- ・「ふれんどまつり」の実施 平野区子育てフェスタに参加
- ・民間と行政が協働して実施した「子育ての輪まつり」を平野区役所で開催しました。

(担当者からの一言)

3か月健診で、ブックスタートの案内を受けたり、広場のチラシをもらったことをきっかけに来てくださる方が、多かったように感じます。多い方では週に2~3回、ほぼ日課のように来られる方もおられる一方、週に1回や月に数回、ふらっと遊びに来てくださる方もおられます。来所の頻度に関わらず、お母さん同士が和やかに、仲よく過ごされている様子は、スタッフの気遣いだけでなく、お母さんたち自身の気遣いも感じられ、嬉しく思う点です。

午前中は、2歳未満のお子さんが多く、午後からは2~3歳児が多い傾向があり、秋が過ぎる頃には、就園直前のお子さんは公園などに出掛けることが多くなったようで、ゆったりとした広場の日が多かったように感じます。ふれんどまつりやクリスマス会などのイベントの日には、利用者さんが一堂に会する感じになり、盛況な一日になりました。今年度のふれんどまつりは、地域の方にもお声をお掛けしましたが、来所していただくまでには至りませんでした。講習会なども、お母さんたちには満足いただけただようで、子どもたちの成長を感じながら、お母さん自身もリフレッシュできる貴重な時間になっていると感じます。



ふれんどまつり「バスに乗って」



ブックスタート

③ 龍華おやこのひろば 平成20年10月1日開設 週3回開設

八尾市のヒューマンフェスタに参加しています。

(担当者からの一言)

今年度は、龍華コミュニティーセンターでの乳児相談のほかに、お話会にも参加して広場の案内をしてきました。また地域の「こんにちは赤ちゃん訪問員」の方にも広報をお願いすることで、広く広場を知って頂くことが出来ました。

そして、今年度実施された「子育ておうえん事業」の相談員として、八尾市の情報を集め積極的に案内をすることで、利用者の方に地域と繋がって頂くことが出来たと思います。また「認定こども園」に関する情報を集め利用者に紹介することで、保育所や幼稚園選びの参考にして頂けるように努めました。また、毎月の「親子あそび」「お誕生日会」「ベビーマッサージ」「英語で歌おう」などの親子で楽しめる講座や、「スクラップブック作り」「牛乳パックの椅子作り」「簡単工作」といった大人が楽しめる講座、そして「コモンセンスペアレンティング講座」や「ブレインジム講座」といった子育て講座を実施することで、安心して子育て出来る環境作りを目指しました。



読み聞かせ



赤ちゃん大集合

④ 平野おやこの広場 平成 23 年 1 月 11 日開設

小さいながらほっとできる実家のような「ひろば」です。「平野子育ての輪まつり」の開催
広報誌「こっとなん」の発行

ハートフレンドでは、加美北の長沢住宅2号棟108号室で、「ふれんど広場」を
平野馬場で「平野おやこの広場」をオープンしています。(時間は、別紙予定カレンダーをご覧ください)

どちらの広場も主に0～3歳の乳幼児と保護者の方がいつでも(開設時間内でしたら・・・)
遊びに来ていただける場所です。(下のお子さんが、3歳以下の方なら、兄弟姉妹の方もどうぞ!)



春は新しい生活が始まります。「広場って何?」ってご存知ない方、知ってるけどいった事がないという方、どうぞ広場に足を運んでみてください。遊びに来てくれている親子さんからは「アットホームな雰囲気がいい」とか「おもちゃがいっぱいあって、子どもが楽しく遊んでる」とか「子どもと2人きりの家で煮詰まったり、しんどくなった時、とってもいい気分転換になる」「子育てのしんどさが軽減される」という声をいただいています。初めてのことをするのは、戸惑いや不安があるかもしれませんが、でも、一步踏み出すと意外と「いけるかも・・・」って心が軽くなることもあると思います。広場では、「絵本の時間」や「折り紙」(苦手って言いながら皆さんステキな作品を作っておられます。なので安心してください!)などの時間もあります。

ふれんど広場のおまつりと
平野おやこの広場の「折り紙の
時計」です



(担当者からの一言)

平野おやこの広場は、の昭和の香り漂うこじんまりとしたお家です。この「狭さ」が広場の特徴ともいえます。はじめてこられた方も他の参加者さんとの距離が近く、我が子もほかの子もそばで遊んでいるので子ども達の遊ぶ姿を通して会話のきっかけが見つかりやすいようです。誰かが、初めて歩いたときなどはその場にいるママ達から歓声が上がり、拍手が起きます。そんな場面が今年は特に多く見られたように思います。近所の会社の大きな職員寮のママ達が、妊婦さんや出産直後のママさんに声をかけくださったり誘って一緒に遊びに来てくださったりといううれしいこともたくさんありました。

特に大きな成果は、利用者さんも参加しての避難訓練でした。「寒い中、はだしは気になる」とか「鍵や携帯電話は、身に付けてもらっていた方がいいのか?」「抱っこひもはどうする?」などスタッフ間はもちろんママ達とも話し合うことができました。これからも居心地のいいアットホームな広場作りを心掛けていきたいと思っています。

つどいの広場実績一覧（平成27年度）

3、キッズクラブ（児童の午後6時～8時までの預り）事業

27年度は実施しませんでした。

4、乳幼児親子わくわくどきどきフェスタ in パークセンター

平成27年5月7日（土） 場所：長居パークセンター

5、大切なところとからだの授業の推進

① 桑津小学校 12月11日（水） 5年生



桑津小学校の5年生を対象に、「ところとからだの大切な授業」を行いました。講師に、助産師の渡辺和香先生にお越しいただいて、赤ちゃんがどのように産まれてくるのか、そして、自分達もどんなに大切に生んで育ててもらっているのか、自分の体を大切にする事、危険からどのように自分で自分を守らなければならないかを、教えていただきました。水着を着て、隠すところを、”プライベートゾーン”と言って、他の人に見せてはならない部分だと学びました。また、ゲストに、4組の乳幼児親子さんと、2組の妊婦さんにお越しいただいて、お腹の中の赤ちゃんの心音を聞かせていただいたり、妊婦さんのお腹を触らせていただきました。児童代表の生徒さんの心音とお腹の赤ちゃんの心音の速さを聴き比べて、赤ちゃんの心音がかなり速いことも教えていただきました。そして、乳幼児さんとの触れ合いタイムを設け、抱っこさせてもらったり、握手したりと、普段なかなか、乳幼児さんとの触れ合う機会がない子どもさんが多く、「可愛い可愛い！！」と喜んでくれていました。ママ達のインタビューの中で、妊娠中に気を付けていること、産まれた時どのように思ったか、子どもが生まれて嬉しいこと、大変なことなどをお話していただいて、子ども達も色々感じてくれたと思います。とても有意義な授業になりました。

② 東住吉中学校 平成 28 年 1 月 24 日（木） 中学 2 年生 150 名

乳幼児親子が、東住吉中学校 2 年生に「出産や育児」についてお話をしてくださる「中学生と乳幼児親子の交流会」を開催しました。18 組の乳幼児親子が中学校講堂に集まってくださいました。15 名ほどの中学生が輪になりそこに 1 組から 2 組の親子が入っての交流会でした。中学生からも質問がたくさんでました。最後に、お母さん、一人ひとりが、中学生に「メッセージ」を贈りました。

その後、「お互いの命を大切に」をテーマに「虐待防止プログラム」の講座を実施しました。わかりやすく伝える方法、相手を誉めることの素晴らしさ、暴力以外の方法を使って自分の想いを伝えることの大切さや方法を学びました。



6、0歳児から4歳児をもつ親の子育て力アップ講座（東住吉区委託事業）

「東住吉区キャッチ&フォロー事業」

目的 0歳児から小学生、中学生までへとつながる長期的な切れ目のない子育て支援の実現を目指して、乳幼児期に発達障がい（疑）等により子育てのしづらさを持つ親に対して、「親の子育て力アッププログラム」を提供するとともに、親どうしが情報交換や交流できる「子育て親子の居場所づくり」を実施することで、安心して子育てができるサポート体制づくりを目的とする。また、随時、子育ての相談・援助を行い、親自身が自分の子育てに自信をもちエンパワメントされてお互いに支え合える関係づくりを目指す。

内容

(1) 親の子育て力アッププログラム

子育てに不安感をもち、つまずきを抱えて、どのようにして子どもと良好な関係を築いていくのかがわからない親は増え続けている。いらいらしてつい暴力的な言葉を発して、子どもとの関係が悪化していく。悪化しているので、子どもがなかなか言うことを聞いてくれない。そのような負の連鎖が起きる。負の連鎖からプラスの連鎖にしていくために「親の子育て力アッププログラム」の実践は必要である。「親の子育て力アッププログラム」は、コモンセンスペアレンティング（CSP）のプログラムを基本として、2歳児用、4歳か5歳児用に工夫を凝らして実施する。大きな特徴は、子どもの問題行動を予防すること（予防的教育法）と親子の関係を良好にしていくことにある。プログラムを講師の講義やモデリング、ロールプレイなどを取り入れて実践的に学ぶことで、子育てすることに自信をもつことができる。このプログラムを使い、子どもとの関係を良くしていくことで、子どもへの愛情を表現できるようになり、子ども側も親への信頼を深めることができる。

- ① 年間9回の実施とする。それぞれの回は、4回連続講座とする。
- ② 一時保育あり
- ③ 場所：東住吉区社会福祉協議会さわやかセンター会議室と保育室

スケジュール

	親の子育て力アッププログラム	講師・補助スタッフ	交流会 の開催
4月	第1回親の子育て力アッププログラム	講師1名、補助スタッフ3名	
5月	第2回親の子育て力アッププログラム	講師1名、補助スタッフ3名	
6月	第3回親の子育て力アッププログラム	講師1名、補助スタッフ3名	7月開催
8月	第4回親の子育て力アッププログラム	講師1名、補助スタッフ3名	
9月	第5回親の子育て力アッププログラム	講師1名、補助スタッフ3名	
10月	第6回親の子育て力アッププログラム	講師1名、補助スタッフ3名	11月開催
12月	第7回親の子育て力アッププログラム	講師1名、補助スタッフ3名	
1月	第8回親の子育て力アッププログラム	講師1名、補助スタッフ3名	
2月	第9回親の子育て力アッププログラム	講師1名、補助スタッフ3名	3月開催

(2) 交流会の開催

年間3回の実施。親子あそびのプログラム、わらべうたマッサージなどを通じて親子どうしの楽しい情報交換の場や交流の場とする。また、学んだプログラムについての実践の状況についての相談を受けてサポートにつなげる。交流会のスタッフは4名とする。場所：東住吉区社会福祉協議会さわやかセンター会議室

(2) 子育ての相談・援助について

電話相談や来所による相談も受け付ける。常に区役所の保健師、家庭児童相談員、臨床心理士、保育士等と連携を強化して支援を行う。担当：保育士

平成27年度アンケート結果 9回の講座（1回は4回連続講座）

修了者51名

1、講座を受講されていかがでしたか。 満足度98%

満足：42名 82,3%

どちらかといえば満足：8名 15,8%

ふつう：1名 1,9%

2、「子育て力アップ講座」でご紹介した「子育てのコツ」はご家庭でも実践できる内容でしたか？

1：家庭で実践できる内容で実際に実践した・・・49名 96%

2：家庭でも実践できる内容だったが、実践できなかった・・・2名 4%

3：家庭で実践できない内容だった・・・0名

3、どのようなコツを実践で使いましたか？

わかりやすい声かけのコツ	32名
こどもをほめるコツ	32名
必要以上に「ダメ」と言わないコツ	15名

4、受講前と受講後で子育てに対してのお気持ちについて

1：受講前より受講後のほうが、子育てに対して少し気が楽になった (40)名 78,4%

2：以前とかわらない (10)名 19,6%

3：以前より「子育て」をしんどいと感じる (1)名 1,9%



修了式



お母さん手作りの「がんばり表」

7 障がいのある子どもの放課後の居場所づくり

障がいのある子どもの放課後の居場所づくり

児童ディサービス・ハートフレンド

平成 24 年 2 月 1 日事業所を開設（東住吉区西今川 2-8-1）

営業日： 月曜日から金曜日（祝日も営業）9：30～18：30

平成 26 年 7 月より第 2 土曜日の営業を追加

利用時間：27 年 4 月より 11：00～17：00 に変更

平成 28 年 3 月現在 40 名のこども達が登録、38 名のこどもが参加しています。

職員数： 管理者 1 名、発達支援管理責任者 1 名、

指導員 8 名、送迎運転・指導職員 4 名、事務 3 名（ハート兼任）



★平成 27 年度 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日	23	22	23	24	20	23	23	22	20	20	22	24	266回
登録人数	34	34	34	35	35	37	37	38	38	39	39	40	
延べ利用人数	204	196	218	214	188	204	211	208	188	176	201	208	2416名

利用人数は、当日参加した人数です

昨年：平成 26 年度利用実績 年間開所日 260 回 登録人数 33 名～35 名

延べ年間利用人数 2547 名

開設より 4 年が過ぎました。東住吉区には更にたくさんの児童ディができ、19 事業所あります。最近すぐ近くに 2 か所の事業所もオープンしました。

その中でもハートフレンドは、こども一人一人に寄り添い、療育と安全・安心を心がけ、順調に運営できており、感謝の毎日です。更に良い事業所運営に努めます。

★児童ディサービス・ハートフレンドの特徴

- 1、あそびの中に、療育的視点を持って取り組んでいる。
- 2、身体を使ったあそび（トランポリン、バランスボールなど）を取り入れている。
- 3、自己選択の機会を積極的につくっている。（おやつバイキング、お買い物学習など）
- 4、部屋内の構造化に気をつけている。また、スケジュールを提示している。
- 5、絵カードや PECS を使い、こどもの要求を引き出す取り組みをしている。
- 6、外あそび、公園あそびを積極的にしている。
- 7、こどもが主人公になる居場所づくりを心がけている。終わりの会の発表や司会など。
- 8、丁寧な送迎を心がけている。
- 9、定期的にスタッフ研修をし、スキルアップに努めている。

（講師：NPO 法人チャイルズ 代表是澤ゆかり氏 アドバイザーをお願いしている）

- 10、積極的に身近自立に取り組んでいる。(トイレトレーニングや着替えなど)
- 11、お手伝いカードを使い、お手伝い活動に積極的に取り組んでいる。
- 12、終わりの会の時間を活用し、集団の取り組みをしている。(自発的発表、着席行動や SST など)
- 13、避難訓練、お誕生日会、おやつクッキング、お買い物学習などの取り組み
- 14、保護者学習会や個別相談(講師・相談者：是澤氏)の充実
- 15、学校、事業所、専門家、家庭とのケース会議の実施

★ 成果例

- ・ 27年度も、大きなけがや事故無く、運営できた。
- ・ 終わりの会で発表(ダンスや絵を披露、出来事の発表などの自己表現)する人が増えた。
- ・ 発語、ことばが増えた人が数名いる。
- ・ 異年齢の中で年少の友達を大事にする機会がある。また、年長の友達と楽しく遊べる。
- ・ 楽しんでディに来てくれる人が多い。

活動室



お手伝いカード (3つハンコがたまったらごほうびおやつ!)



平成 27 年 12 月 新車を購入し送迎が快適になりました

ハートフレンドは、2台の送迎車を所有していますが、子どもたちが大きくなり、7人乗りの車で送るのが大変になってきました。昨年度、福祉車両ホンダステップワゴン 8人乗りの購入に助成いただきました。もう1台の車も7名乗り、中古車で走行距離も多くなっていたので、安全の面からも車検前に新車を購入することにしました。日産の「セレナ」を購入し、子どもたちも運転手も、安心して快適に送迎ができるようになりました。



9月5日 東住吉区自立支援協議会イベント

「とんフェス」にて 展示 利用者の工作作品ディのみんなが夏休みに描いた絵を一つの作品に貼り込み展示しました。絵の具でお絵かきしたものを少しずついただいて、夏の思い出を表しました。立体感を出して、風にひらめくTシャツを干しました。

8 高齢者支援活動2015

1、おとなのてらこや事業（認知症予防・介護予防事業）

講師：辻阪秋代 久川佳寿子 宮西扶美子

- 桑津教室 第1・第3木曜日クラス 午前10時～11時半 桑津会館
- 阿倍野区老人福祉センター 毎月第1・第3金曜日 午前10時～11時半
22回 約32名参加
- 加美北ふれんど「ひだまりサロン」火曜日 おとなのてらこやの実施

教室名	回数	実数	
阿倍野区老人福祉センター	22回	704名	平成19年度から～講師：辻阪秋代
桑津ハートフレンド木クラス	24回	432名	平成18年度から～講師：辻阪秋代 久川佳寿子 宮西扶美子
加美北ふれんど「ひだまりサロン」	22回	156名	平成23年度から～講師：久川佳寿子
合計	回	名	

どの講座も非常に好評で、いろいろな区から講師依頼があります。26年度は西淀川区で、27年度は吹田市でハートをモデルに事業がはじまりました。また、見学や視察も多いです。



阿倍野教室



阿倍野教室 皆勤賞受賞式



桑津教室



ひだまりサロン（ふれんど広場）

9、第11回東住吉区金魚すくい選手権大会ハートフレンドカップ実績報告書

実施年月日	平成27年6月21日（日）
事業名	第11回東住吉区金魚すくい選手権大会ハートフレンドカップ
事業目的	金魚すくいを通じて、地域の乳幼児をもつ親子から高齢者までが参加することで、多世代間交流を図る。また、ボランティアスタッフを、地域の青少年団体や地域の方々と構成し、様々な団体の交流の場とする。
実施場所	大阪市立桑津小学校
実施内容	大和郡山市の全国金魚すくい選手権大会のルールに基づき、3分間での金魚の匹数を競う。個人戦は、一般の部と小・中学生の部とし、団体戦は3名1組の合計引数を競う。10艘の水槽で行い、1艘4名で10艘40名を1対戦組とし、対戦組ごとに準決勝・決勝に進出していく。1・2・3位は全国大会出場の資格がある。また、ハートフレンドのジュニア・リーダーが、司会進行を担い、ジュニア・リーダーとしての力を育む。「えんにち」としてたこせんと駄菓子を販売した。
実施回数	11回目
主催団体	桑津地域活動協議会
事務局	特定非営利活動法人ハートフレンド
後援	東住吉区役所 （公益財団法人）関西テレビ青少年育成事業団 大阪東住吉平野ライオンズクラブ （社会福祉法人）東住吉区社会福祉協議会 東住吉区民生委員児童委員協議会 東住吉区更生保護女性会 一般財団法人大阪市コミュニティ協会東住吉区支部協議会
協力していただいた団体	桑津青少年指導員連絡協議会、桑津スポーツ推進委員会、桑津青少年福祉委員連絡協議会、桑津地区民生委員児童委員会、桑津だんじり保存会青年部、親子サロン、すみれ会、ハートフレンドおとなのてらこや、桑津ソフトボール愛好会、桑津食事サービス 桑津小PTA 桑津ふれあい喫茶 城南短期大学
参加者数	一般 87名、小・中学生 88名、団体 31組 合計 268名
事業広報	区の広報誌「なでしこ」掲載、 区内全町会回覧・ポスター配布 HPで紹介
事業の成果（自己評価）	① 乳幼児をもつ親子から高齢者の方々まで参加していただき、世代間交流の場となった。 ② 様々な団体がともに活動をすることで、団体間の交流がさらに強くなった。特に、今年度は、桑津地域活動協議会が主催となり、お手伝いのスタッフが、とても早い時期にたくさん集まってくださった。

第 11 回東住吉区民金魚すくい選手権大会ハートフレンドカップ

日時：平成 27 年 6 月 21 日（日）午前 10 時～午後 3 時

場所：大阪市立桑津小学校講堂

参加者：一般の部 87 名 小・中学生の部 88 名 団体の部 31 組

268 名の選手の皆さんです。

第 11 回の大会の様子

開会式の様子



来賓デモンストレーション



成績発表

	一般の部	小・中学生の部	団体の部
優勝	浜崎美留子 30 匹	三宅 志門 15 匹	みんななかよし 31 匹
準優勝	平山 義央 19 匹	伊藤 里紗 12 匹	オーシャンズ 28 匹
第 3 位	綱島 喜久栄 17 匹	北田 樹里奈 11 匹	CAT フレンド 22 匹

日時：平成 26 年 6 月 21 日（日） 参加者 一般 87 名 小中学生 88 名 団体 31 組
 総数 268 名 場所：大阪市立桑津小学校講堂

アンケート回収 47名

1、大会についての感想

① 楽しかった 32名、12団体

内訳 一般 18名 小中学生 14名 団体 12団体

理由

- ・金魚がもらえて嬉しい
- ・来年も是非にきます。楽しかったです。・ミルクせんべいもしてほしい
- ・楽しい大会でした。・参加させていただき楽しかったです。
- ・スタッフの皆様、お疲れ様でした。
- ・来年も参加します！ ・ 楽しく参加させていただきました。
- ・また、続けていただけたら嬉しく思います。
- ・いつも楽しく参加させていただいています。これからも続けてくださることを希望します。頑張ってください。
- ・子ども達の参加がまだまだ少ないと感じたので、もっと参加できるようにしたいと思います。
- ・大人が本気モードで金魚すくいをする機会があまりないので、家族一同みんな楽しめました。ありがとうございました。
- ・初めて参加しましたが、予想以上に気合が入って楽しめました。悔さを来年に！
- ・金魚がもらえた、嬉しい
- ・金魚が一杯いた。・金魚が可愛かった
- ・めっちゃ楽しかった！！
- ・すごく楽しかった 4名
- ・もうちょっと、すくいやすくしてほしいかった
- ・今日は最高の一日だった
- ・来年も参加したい
- ・難しくてあんまりすくえなくて悔しかった。でも楽しい
- ・団体で容器3つほしい
- ・子どもと参加できました。初めてでしたが、練習場のスタッフの方がたが「・・・の方がいいよ」「・・・してみたら？」と声をかけてくださって本当に楽しく参加できました。ありがとうございます。
- ・金魚すくい楽しかった
- ・コインおとしも楽しかったよ
- ・今日は楽しかった。またしたい。

② ふうつ 4名

理由

- ・来年も参加したい
- ・観覧席に荷物を置きっぱなしの人がいるのでやめてほしい
- ・対戦するときに、金魚がかたよっているの、水槽に座る位置を 子ども達にきめさせてほしい。

③ あまりよくない 団体 1 組

- 理由
- ・大人の影で、金魚が大人のほうに集まり、子どもには不利なために団体は子ども組と大人組が別に対戦してほしい。
 - ・金魚が集まっている所に座れなかった子どもは不利。
 - ・審判に言ったら「集まる場所は金魚に聞いて」という答えだった
 - ・子どもの部からの対戦組にしてほしい。待つのが疲れるから。

2、世代間交流の目的についての感想

① 大人と子どもが楽しく過ごせた 32 名 11 団体

② 楽しく過ごせなかった 1 団体

理由：子どもと大人では目的が違うから

大人の影に金魚が集まり、子どもに不利だから

3、考察

① 運営の方法について

・なぜ、子どもから対戦するのか（朝一は金魚が元気すぎてすくにくいから）大人の影に金魚があつまり子どもには不利（1分たつと金魚が全体に浮いてきます）と言う声に対する説明不足を感じた。

今後は運営団体として会場の皆さんへ丁寧な説明をしたい。

② スタッフの確保について

たくさんの地域の団体・個人の方がスタッフとなりお手伝いしてくださった
(今回 99 名)

団体において若い人もスタッフとしてきてくださることが多くなった
ジュニア・リーダー育成を再開していきたい

③ 資金について

「桑津地域活動協議会」主催になった第 9 回から寄付や広告協賛が増えてきた。ハートフレンドとしてもやりがいのある事業となっている。

小冊子掲載・発行

- ☆ 「子どもの居場所づくりから生まれたNPO法人」
平成18年9月1日 発行：(社)全国子ども会連合会
- ☆ 障がいのある子ども達の居場所づくりと親支援事業」
平成21年 発行：ハートフレンド
- ☆ 「子どものわが町探険隊」
平成21年 発行：ハートフレンド

冊子に掲載

- ・平成19年発行 Vol.82
「カトリア通信」街の元気は女性から「ハートフレンド」発行：JAバンク大阪
「子どもと家庭の福祉」発行：保育出版社
- ・平成19年 11月 月間「赤ちゃんとママ社」
- ・平成21年 地域福祉研究「地域福祉を開花させる実践」座談会 日本生命済生会
・平成21年 保育ナビ (株)フレーベル館
- ・平成21年 大阪市子育ていろいろ情報センター秋号 ジュニア・リーダークラブ
- ・平成26年 市民活動雑誌「ウオロ」掲載 社会福祉法人大阪ボランティア協会
「子どもの貧困」への解決に向けた新たな取り組み～「子どものてらこや」掲載

執筆協力 徳谷章子

- ・平成19年7月16日 週間教育資料「自由席」
テーマ「やる気のない子なんてどこにいるのでしょうか」
- ・平成19年 子育て支援シリーズ「地域の子育て環境づくり」
第4章地域との共生をめざした活動 発行：ぎょうせい
- ・平成20年「子どもの文化」
発行：子どもの文化研究所
- ・平成21年 民生委員・児童委員活動事例集
大阪市「地域総がかりの子育てを」
- ・平成21年 「子育て支援と心理臨床」発行：福村出版
- ・平成24年 「ミッションからみたNPO」坂本恒夫
- ・平成27年 「おそい・はやい・ひくい・たかい」ジャパンマシニスト社
 - 「ばあば・じい次世代から、ちょこっといわせていただくと」
 - 「働く」「自立」を考える 私はこうして過ごしてきました

新聞掲載

- | | | | |
|-------|--------|--------|-----------------------|
| 平成17年 | 11月28日 | 日本教育新聞 | 「地域が手づくりする居場所」 |
| 平成18年 | 2月19日 | 日本教育新聞 | 「地域子ども教室が残したもの」 |
| 平成19年 | 9月23日 | 読売新聞掲載 | 「第1回よみうり子育て応援団大賞」大賞受賞 |
| 平成19年 | 11月14日 | 読売新聞 | 「支えてほしい 支えたい」徳谷章子 |

よみうり子育て応援団@西宮

平成20年	4月23日	読売新聞「地域の子育て 深まる絆」
平成20年	7月7日	日本教育新聞 「子どもを褒めるコツしかるコツ」
平成20年	9月7日	大阪日日新聞 「さわやかNPO」
平成20年	9月20日	朝日新聞 「子ども お仕事体験」
平成21年	8月19日	読売新聞 「生活者の目で」消費者問題・子育て支援
平成21年	8月24日	日本教育新聞 「こうして解決！民生・児童委員」徳谷章子
平成22年	2月22日	日本教育新聞 子どもを主役に「わが町探険隊」
平成22年	6月17日	産経新聞 参議院に望む 「子育て支援 国の仕事として考えて」徳谷章子
平成22年	11月28日	読売新聞 「知りたい みんなの叱り方」 よみうり子育て応援団@大阪
平成23年	写真洗浄プロジェクト	読売新聞、朝日新聞 産経新聞
平成25年	2月	読売新聞社 子ども子育て応援団パートナーズ発足
平成25年	6月	読売新聞社 「みんなの木」
平成25年	10月	読売新聞社 「子育て団体結束しよう」
平成25年	11月	産経新聞社「非常食とりダンボールで睡眠」
平成25年	3月	日本経済新聞社「市長選について」「子育て・教育の争点」
	3月	日本教育新聞「書評」ハートフレンド「あ・り・が・と・う」
平成26年	4月	読売新聞「居場所づくり10年の奇跡」NPO法人ハートフレンド
平成26年	5月	大阪日日新聞社 「子どもたち笑顔満開」わくわくどきどきフェスタ
平成26年	12月	読売新聞社 「つながり母親も成長」徳谷章子
平成26年	12月	産経新聞社 「子育てがもっと楽しくなるように」徳谷章子
平成26年	2月	産経新聞社「子育ての環境を整える」みんなで語ろう！ わくわく子育てトーク徳谷章子
平成26年	4月	日本経済新聞社「大阪住民投票」について
平成28年1月	14日	読売新聞社 「子どもの防災力 地域で育む」
平成27年度から28年度		大阪日日新聞社 5回連続コラム掲載「潯標」徳谷章子
		その他 読売ファミリー誌 東住吉タウンなど多数

テレビ放映

平成19年	11月14日	よみうり ザ・カンサイ
平成19年	11月20日	読売ニュースナビ
平成20年	4月12日	NHK 「ご近所の底力」

平成23年 7月 NHK放送 「思いでは流れない写真救済プロジェクト」
全国版

平成26年 4月 NHK放送大学のおける映像「こどものてらこや」

HPへの掲載

平成19年 愛育ネットの第4回子育て支援実践に掲載

平成28年度大阪府子育てナビ「ふぁみなび」の「まっちなび」「ぷろなび」で紹介

平成28年度大阪市東住吉区「子育てナビで」紹介

受賞実績

★平成19年度 第1回よみうり子育て応援団大賞 「大賞」受賞

★平成21年度 近畿ろうきんNPOアワード大賞受賞

★平成21年度 CB・CSOアワードおおさか2009 優秀賞受賞

★平成22年度 子ども若者育成・子育て支援功労賞「内閣府特命担当大臣賞」（子育て部門）受賞

総理大臣官邸にて表彰式

★平成23年度 「大阪商工信金社会福祉賞」受賞

★平成24年度 CB・CSOアワードおおさか2012 奨励賞受賞